

## 江東区の伝統工芸

# べっ甲細工（べっこうざいく）

べっ甲細工は、熱帯の海にいる海亀の一種タイマイの甲羅こうらや爪・腹甲はらこうを加工、細工して装飾品として作られたものです。べっ甲は、湿気を与えることで接着剤なしで張り合わせたり、弾力が生まれて曲げることができます。そのうえ刃物による加工がたやすく、磨くと琥珀色の美しい光沢があらわれます。

江戸のべっ甲細工は、華麗かれいで豪華ごうかな蒔絵まきえ、複雑とくちような細工に特徴がありました。金や銀と同様に珍重されたことから、江戸時代中ごろにはぜいたく品としてたびたび取り締まりを受けています。そこで、タイマイではなく鼈甲べっこう すっぽん（鼈の甲羅）と言い逃れたことから、「べっ甲」と呼ばれるようになったともいわれています。

現在、区無形文化財保持者の磯貝實いそがみのる氏と、子息で弟子の剛つよし氏、克実かつみ氏、大輔だいすけ氏が伝統の技を今日に伝えています。



## ガス燈・ベンチ・人力車

製作：神村辰也かみむらたつや（元区無形文化財保持者）



## 茨布かんざし・白甲水玉かんざし・茶杓

製作：神村辰也（茨布かんざし・白甲水玉かんざし・茶杓）

製作：磯貝實（茨布かんざし）

### ■「かんざし」

髪飾りの一つで、髪を留めるヘアピンの役割があります。

### ■「茶杓」

茶道具の一つで、抹茶を茶器からすくって茶碗に入れるさじです。

### 【茨布甲】

背甲のまだら模様を活かして作られたもの。斑点の明瞭なものが高級品。

### 【白甲】

腹甲などのアメ色の甲羅だけで作られたもの。数が少なく、最高級品。



## 白甲ネックレス・茨布鬘ぐし

製作：磯貝實（白甲ネックレス）

製作：神村辰也（茨布鬘ぐし）

### ■鬘

日本髪の後頭部からえり足の部分です。



かんざしをつくる



糸ノコで型を取る



ガンギヤスリで傷を取る



タイマイ



頭と足を接着する



反りをつける



磨く